

校長室より

第46号

「天空高き」



平成25年4月12日

新しい四月 うれしい四月



右の詩を読んで下さい。
早く学校に通いたくて、新しいかばんに新しい本を何回も入れたり出したりしながら、入学を心待ちにしている様子が見えてきます。

学校に行くと、新しい友達、新しい先生に出会います。

高水学園にも、新しい仲間を迎えました。新入生の皆さん、入学おめでとございます。

校庭の桜や中庭のチューリップの花たちが、新入生の皆さんを今か今かと心待ちにしていました。



四月 金子みすゞ

新しいご本、
新しいかばんに。

新しい葉っぱ、
新しいえだに。

新しいお日さま、
新しい空に。

新しい四月、
うれしい四月。



ともに 学び合うことを楽しむ



新学期がスタートしました。今年度の重点目標は「ともに 学び合うことを楽しむ」です。

ほとんどの皆さんは知っているかと思いますが、今テレビのコマーシャルで東進ハイスクールの林修先生のセリフ「いつやるか？ 今でしょ！」が流行語になっています。

また、アメリカの百ドル紙幣に肖像が描かれている物理学者で政治学者でもあるベンジャミン・フランクリンに、「Don't put off till tomorrow what you can do today.」（今日できることを明日に延ばすな）という名言があります。

「いつかという言葉で考えては失敗する。今という言葉を使って考えれば成功する」と述べています。

皆さんにとって、今しかできないことは一体何でしょうか。

それは、「一生懸命 勉強をすること」です。学校で一生懸命にこれからの人生を自ら切り拓いていくための「生きる力」を身に付けることです。

そのためには、まず、授業を大切に、予習－授業－復習の学習サイクルを確立して下さい。そして、毎日机につく習慣を身に付けて下さい。

次に、学校行事・生徒会活動・部活動に主体的に積極的に取り組んで下さい。集団の中で人は育ちます。特に先輩や後輩たちと活動する中で、我慢すること、思い遣る気持ち、お互いに協力し助け合う心などが育ちます。

そして、この2つを達成するためには、生活力を身に付けることです。生活力には、2つあります。1つは時間やお金の使い方を正しく身に付けるということです。もう1つは、炊事・洗濯・掃除などの家事手伝いと健康管理が出来るようになることです。

明日からまた、校門前に立って、皆さんとのふれあいを大切にしながら、挨拶や声かけをしていきます。

明るい元気な挨拶をお願いします。そして、もう一つ、皆さんが気持ちよく学べるために、学校の環境を美しく保ちたいと思います。毎日の掃除に真面目に一生懸命に取り組んで下さい。そして、ゴミを落とさない、ゴミを拾える皆さんになってもらいたいと思います。当たり前のことですが、当たり前ことを続けてやがて、本物になります。毎日の小さな努力をお互いに積み上げていきましょう。

出会いは偶然 別れは必然

ならぬことはならぬー間違っていること、悪いこと、いけないことはして

はいけないー

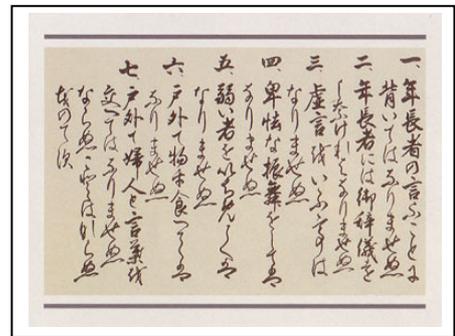
NHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公の八重は、関西の私学の雄（ゆう）、同志社大学を創立した新島襄の夫人です。

彼女は会津藩の出身です。その当時、会津藩の子供は、六歳から勉強を始めます。午前中は近所の寺子屋で「論語」や「大学」（中国、孔子の教えを説いた本）などの素読を習い、いったん家に戻り、午後、一カ所に集まって、組の仲間と遊びます。一人で遊ぶことは禁止だったそうです。

仲間は、10人1組を意味する「什」（じゅう）と呼び、年長者が什長に選ばれました。遊びの集会場は什の家が交替で務めました。

什には掟があり、全員が集まると、そろって8つの格言を唱和しました。

- 一、年長者のいうことを聞かなければなりません。
- 一、年長者にお辞儀をしなければなりません。
- 一、虚言をいうてはなりません。
- 一、卑怯なふるまいをしてはなりません。
- 一、弱い者をいじめてはなりません。
- 一、戸外で物を食べてはなりません。
- 一、戸外で婦人と言葉を交わしてはなりません。



そして最後に、「ならぬことはならぬものです」と唱和しました。

私も小さい頃は、いつも上級生、下級生が入り交じった集団で、遊んでいました。その中で、上級生からマナーやルールを学び、同級生から学んだことはほとんどありませんでした。

ベストセラーになりました、「国家の品格」の著者、藤原正彦氏は、その著書の中で、こう記しています。

父の教え

私にとって幸運だったのは、ことあるごとにこの「武士道精神」をたたき込んでくれた父がいたことでした。父はいつも、「弱い者いじめの現場を見たら、自分の身を

挺してでも、弱い者を助けろ」と言われていました。

父は、「弱い者がいじめられているのを見て見ぬふりをするのは卑怯だ」と言うのです。私にとって「卑怯だ」と言われることは、「お前は生きている価値がない」というのと同じです。だから、弱い者いじめを見つけたら、当然身を躍らせて助けに行きました。・・・(中略)・・・しかも、父の教えが非常に良かったと思うのは、「それには何の理由もない」と認めていたことです。「卑怯だから」でおしまいです。

卑怯を憎む



私は、「卑怯を憎む心」をきちんと育てないといけないと思っています。法律のどこを見たって、「卑怯なことはいけない」なんて書いてありません。だからこそ重要なのです。「卑怯を憎む心」を育てるには、武士道精神に則（のっと）った儒教的な家族の絆を復活させないといけない。これがあったお陰で、日本人の子どもたちは万引きをしなかった。

ある国の子供たちは、「万引きをしないのはそれが法律違反だから」と言います。こういうのを最低の国家の最低の子供たちと言います。「法律違反だから万引きをしない」などと言う子供は、誰も見ていなければ万引きをします。法律で罰せられませんから。大人になってから、法律に禁止されていないことなら何でもするようになる。時間外取引で、こそこそ株を買い占めるような人間がどんどん生まれてくる。

家族の絆の中にいた日本の子供たちは、万引きなんかしたら、「親を泣かせる」「先祖の顔に泥を塗る」、あるいは「お天道様が見ている」と考えた。だから、万引きをする者は少なかった。卑怯なことをする者が少なかったのも同じ考え方からです。家族の絆が「卑怯を憎む心」を育て、強化し、実践させる力となるのです。

こんな学校に

生徒：厳しいけれど楽しい 教職員：忙しいけれど楽しい 保護者：安心して任せられる

こんな生徒に

○明るい挨拶ができる ○整理整頓ができる ○掃除ができる

こんな先生に

○いつも生徒目線で ○熱意と意欲にあふれ ○常に学び続ける姿勢